

議員氏名：古谷 健司

議案番号：議案第55号

案件名：令和8年度二宮町一般会計補正予算（第2号）

討論内容：

議案第55号の修正案に賛成の討論をいたします。

先ほど執行部に確認したとおりに読み上げますと、庁舎のくい打ちの予算がなくなった修正案が通ると、仮にそのくいを打つ予算が12月議会で通ったとしても、新庁舎建設は3か月遅れ、その建設の予算は1億から1億5,000万円も増えてしまう。そして、今回の補正予算が否決され、くいを打つ予算も、埋蔵文化財の調査の予算も両方とも通らないと、仮に、これら予算が12月議会で通ったとしても、新庁舎建設は6か月も遅れ、建設予算は2億から3億も増えてしまいます。

補正予算の原案を通し、一日も早く新庁舎を完成させたい。しかし、原案が通る見込みはない。そればかりか、私が修正案に手を上げないと、修正案も通らないかもしれない。原案を否決されて、6か月遅れるのであれば、修正案で3か月遅れたほうがまだいいと思いますので、修正案に賛成いたします。

修正案を通し、庁舎完成を3か月遅らすことで、何をするのか。1億5,000万円の血税をかける価値があるのか、大変疑問ではありますが、原案否決よりはいいので、修正案に賛成いたします。

新庁舎を1日でも早く完成させたい。その理由として、前にも読み上げましたが、熊本地震における宇土市役所の状況を最後にもう一度話させていただきます。

2016年4月14日に発生した熊本地震で、宇土市役所は4階部分が押し潰されるように破壊し、崩落の危険から立入禁止となった庁舎が使用できなくなった市役所です。

宇土市役所の庁舎の4階部分は、柱が全て倒れ、押し潰されました。別館に庁舎機能を移し、災害対策本部を設置しましたが、16日未明、再度大きな地震があり、別館にも危険が及んだため、仕方なく市役所裏の駐車場にテントを張り、災害対策本部を移設しました。ただし、パソコンやファクスは使えない。電話も辛うじて確保した1回線で、初期対応を迫られました。

このような状況下で、本当に災害対策本部といえるのでしょうか。公用車の鍵も、庁舎内に入れないため、取り出すことができず、職員個人の車で救援物資などを運びました。受援体制は整わず、そんな状況でも、避難所運営、被害認定調査、罹災証明書発行などを担ってくれる対口支援の自治体職員や各省庁の職員、自衛隊、警察、災害派遣チームは応援として次々とやってきます。

初動時に災害対策本部と市役所はほぼ機能しない状態で、避難所開設、水、食料、トイレ等を宇土市民に提供できなかったことは、市民に大きな打撃、損害を与えたに違いありません。間違いありません。

そして、4月14日に発生した熊本地震は夜に起こりましたが、もし昼間の勤務時間中に起こっていたら、多くの宇土市職員が死傷したことでしょう。庁舎4階の建設部全員が間違いなく亡くなっていたと思います。発災後4日たった18日から市民体育館に対策本部を移し、5月10日に体育館でやっと市役所の業務を再開、そのときもパソコン4台のみでプリンターもなく、卓球台をデスク代わりに、罹災証明の案内などは段ボールにマジックで書いて対応を始めました。

庁舎が崩壊するとしなければ、初動時の対応が全く違ってきます。初動時の対応が遅れることで、町民の生死に関わってきます。これ以上庁舎建設を遅らしてどうするんですか。一日も早く、新庁

舎を完成させ、これから必ず起こる地震に対し対応していかなければならないと強く思っています。
以上、修正案に賛成の討論といたします。